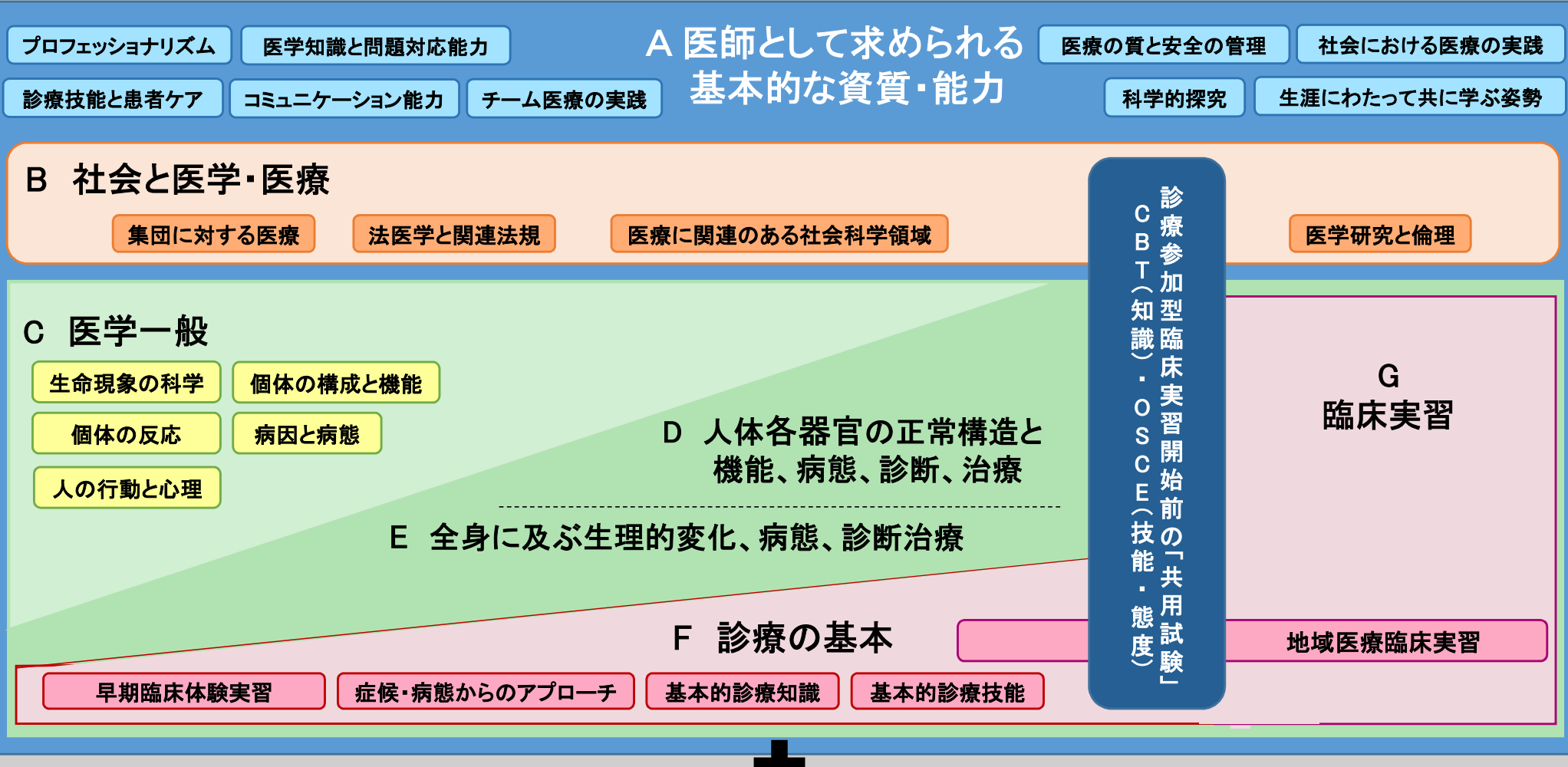


- 学生が卒業時まで身に付けておくべき、必須の実践的診療能力(知識・技能・態度)を、「ねらい」と「学修目標」として明確化
- 学生の学修時間数の3分の2程度を目安としたもの
- 「医師として求められる基本的な資質と能力」として、ミニマム・エッセンスである項目を記載

多様なニーズに対応できる医師の養成



POSTCCOSCE (知識)
(技能・態度)

各大学の特色ある独自のカリキュラム

- 各大学が教育理念に基づいて実施する独自の教育内容(教養教育や、学生が自主的に選択できるプログラムを含む)
- 学生の学修時間数の3分の1程度

1 ○ 医師として求められる基本的な資質・能力

2

3 1 プロフェッショナリズム

4 人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、患者中心の医療を
5 実践しながら、医師としての道（みち）を究めていく。

6

7 2 医学知識と問題対応能力

8 発展し続ける医学の中で必要な知識を身に付け、根拠に基づいた医療<EBM>を基盤
9 に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応する。

10

11 3 診療技能と患者ケア

12 臨床技能を磨くとともにそれらを用い、また患者の苦痛や不安感に配慮しながら、診
13 療を実践する。

14

15 4 コミュニケーション能力

16 患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者及びその家族と良好な関係性を築き、
17 意思決定を支援する。

18

19 5 チーム医療の実践

20 保健・医療・福祉・介護並びに患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する。

21

22 6 医療の質と安全の管理

23 患者及び医療者にとって、良質で安全な医療を提供する。

24

25 7 社会における医療の実践

26 医療人として求められる社会的役割を担い、地域社会と国際社会に貢献する。

27

28 8 科学的探究

29 医学・医療の発展のための医学研究の必要性を十分に理解し、批判的思考も身に付け
30 ながら、学術・研究活動に関与する。

31

32 9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

33 医療の質の向上のために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯
34 にわたって自律的に学び続ける。

1 A 医師として求められる基本的な資質・能力

3 A-1 プロフェッショナリズム

4 人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、患者中心の医療を実践しながら
5 ら、医師としての道（みち）を究めていく。

7 A-1-1) 医の倫理と生命倫理

8 ねらい：

9 医療と医学研究における倫理の重要性を学ぶ。

11 学修目標：

12 ①医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。

13 ②臨床倫理や生と死に関わる倫理的問題を概説できる。

14 ③ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、医師憲章等医療の倫理に関する規範を概説できる。

16 A-1-2) 患者中心の視点

17 ねらい：

18 患者及びその家族の秘密を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、常に患者
19 中心の立場に立つ。

21 学修目標：

22 ①患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）を説明できる。

23 ②患者の自己決定権の意義を説明できる。

24 ③選択肢が多様な場合でも適切に説明を行い患者の価値観を理解して、患者の自己決定を支援する。

25 ④インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。

27 A-1-3) 医師としての責務と裁量権

28 ねらい：

29 豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚する。

31 学修目標：

32 ①診療参加型臨床実習において患者やその家族と信頼関係を築くことができる。

33 ②患者やその家族の持つ価値観や社会的背景が多様であり得ることを認識し、そのいずれにも柔軟に対応できる。

34 ③医師が患者に最も適した医療を勧めなければならない理由を説明できる。

35 ④医師には能力と環境により診断と治療の限界があることを説明できる。

36 ⑤医師の法的義務を列挙し、例示できる。

39 A-2 医学知識と問題対応能力

40 発展し続ける医学の中で必要な知識を身に付け、根拠に基づいた医療(evidence-based medicine
41 <EBM>)を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応する。

43 A-2-1) 課題探求・解決能力

44 ねらい：

45 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身に付ける。

47 学修目標：

48 ①必要な課題を自ら発見できる。

- 1 ②自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位付けできる。
- 2 ③課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。
- 3 ④課題の解決に当たり、他の学修者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。
- 4 ⑤適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。

5

6 **A-2-2) 学修の在り方**

7 **ねらい：**

8 科学や社会の中で医学・医療だけでなく様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合整理し、表現する基本
9 的能力（知識、技能、態度・行動）・リベラルアーツを身に付ける。

10

11 **学修目標：**

- 12 ①講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
- 13 ②得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
- 14 ③実験・実習の内容を決められた様式に従って文書と口頭で発表できる。
- 15 ④後輩等への適切な指導が実践できる。
- 16 ⑤各自の興味に応じて選択制カリキュラム（医学研究等）に参加する。

17

18

19 **A-3 診療技能と患者ケア**

20 臨床技能を磨くとともにそれらを用い、また患者の苦痛や不安感に配慮しながら、診療を実践す
21 る。

22

23 **A-3-1) 全人的実践的能力**

24 **ねらい：**

25 統合された知識、技能、態度に基づき、患者の立場を尊重しながら、全身を総合的に診療するための実践的能力
26 を修得する。

27

28 **学修目標：**

- 29 ①病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、社会歴・職業歴、システムレビュー等）を適切に聴取するとと
30 もに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行える。
- 31 ②網羅的に系統立てて適切な順序で効率的な身体診察を行える。異常所見を認識・記録し、適切な鑑別診断が行え
32 る。
- 33 ③基本的な臨床技能（適応、実施方法、合併症、注意点）を理解し、適切な態度で診断や治療を行える。
- 34 ④診療録についての基本的な知識を修得し、問題志向型診療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書
35 を作成できる。
- 36 ⑤患者の病状（症状、身体所見、検査所見等）、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、
37 医療チーム構成員と意見交換ができる。
- 38 ⑥緊急を要する病態や疾患・外傷の基本的知識を説明できる。診療チームの一員として救急医療に参画できる。
- 39 ⑦慢性疾患や慢性疼痛の病態、経過、治療を説明できる。医療を提供する場や制度に応じて、診療チームの一員と
40 して慢性期医療に参画できる。
- 41 ⑧患者の苦痛や不安感に配慮しながら、就学・就労、育児・介護等との両立支援を含め患者と家族に対して誠実で
42 適切な支援を行える。

43

44

45 **A-4 コミュニケーション能力**

46 患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者及びその家族と良好な関係性を築き、意思決定を
47 支援する。

48

1 **A-4-1) コミュニケーション**

2 **ねらい：**

3 医療内容を分かりやすく説明する等、患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニ
4 ケーション能力を有する。

5
6 **学修目標：**

7 ①コミュニケーションの方法と技能（言語的と非言語的）を説明し、コミュニケーションが態度あるいは行動に及
8 ぼす影響を概説できる。

9 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。

10 ③患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。

11
12 **A-4-2) 患者と医師の関係**

13 **ねらい：**

14 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握する能力を身に付ける。

15
16 **学修目標：**

17 ①患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。

18 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。

19 ③患者の心理的及び社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。

20 ④医療行為が患者と医師の契約的な信頼関係に基づいていることを説明できる。

21 ⑤患者の要望（診察・転医・紹介）への対処の仕方を説明できる。

22 ⑥患者のプライバシーに配慮できる。

23 ⑦患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。

24
25
26 **A-5 チーム医療の実践**

27 保健・医療・福祉・介護並びに患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する。

28
29 **A-5-1) 患者中心のチーム医療**

30 **ねらい：**

31 医療チームの構成員として、相互の尊重のもとに適切な行動をとるとともに、後輩等に対する指導を行う。

32
33 **学修目標：**

34 ①チーム医療の意義を説明できる。

35 ②医療チームの構成や各構成員（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体
36 制について説明し、チームの一員として参加できる。

37 ③自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求めることができる。

38 ④保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。

39
40
41 **A-6 医療の質と安全の管理**

42 患者及び医療者にとって、良質で安全な医療を提供する。

43
44 **A-6-1) 安全性の確保**

45 **ねらい：**

46 医療上のエラー等（インシデント、医療過誤等を含む）や医療関連感染症（院内感染を含む）等は日常的に起こ
47 る可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止して患者の安全性確保を最優先することにより、信
48 頼される医療を提供しなければならないことを理解する。

49

1 **学修目標：**

- 2 ①実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。
- 3 ②医療上の事故等を防止するためには、個人の注意力（ヒューマンエラーの防止）はもとより、組織的なリスク管
- 4 理（制度・組織エラーの防止）が重要であることを説明できる。
- 5 ③医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療記録改竄の違法性について説明できる。
- 6 ④医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、医療過誤（事例や経緯を含む）、やっではないけな
- 7 優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
- 8 ⑤医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。
- 9 ⑥医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、
- 10 医療廃棄物処理、医療安全管理者（リスクマネージャー）、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制
- 11 度、産科医療補償制度）を概説できる。
- 12 ⑦医療関連感染症の原因及び回避する方法（院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、院内感染対策チーム
- 13 （infection control team <ICT>）、感染対策マニュアル等）を概説できる。
- 14 ⑧真摯に疑義に応じることができる。

15

16 **A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防**

17 **ねらい：**

18 医療上の事故等（インシデント、医療過誤等を含む）が発生した場合の対処の仕方を学ぶ。

19

20 **学修目標：**

- 21 ①インシデント及び医療過誤と合併症の違いを説明できる。
- 22 ②医療上のエラー等（インシデント、医療過誤）が発生したときの緊急処置や記録、報告について説明し、実践で
- 23 きる。
- 24 ③医療過誤に関連した行政処分、民事責任、刑事責任について説明できる。
- 25 ④基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルブルーフの考え
- 26 方等）について概説し、指導医の指導の下に実践できる。

27

28 **A-6-3) 医療従事者の健康と安全**

29 **ねらい：**

30 医療従事者が遭遇する危険性（事故、感染等）等について、基本的な予防・対処及び改善の方法を学ぶ。

31

32 **学修目標：**

- 33 ①医療従事者の健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる。
- 34 ②標準予防策(Standard Precautions)の必要性を説明し、実行できる。
- 35 ③患者隔離の必要な場合について説明できる。
- 36 ④針刺し事故（針刺切創）等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。
- 37 ⑤医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。

38

39

40 **A-7 社会における医療の実践**

41 医療人として求められる社会的役割を担い、地域・国際社会に貢献する。

42

43 **A-7-1) 地域医療への貢献**

44 **ねらい：**

45 地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身に付ける。

46

47 **学修目標：**

- 48 ①地域社会（離島・へき地を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科及び業務）の現状について概
- 49 説できる。
- 50 ②医療計画（医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等）及び

- 1 地域医療構想について説明できる。
- 2 ③地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における、保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保
3 健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性について説明できる。
- 4 ④かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を身に
5 付ける。
- 6 ⑤地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。
- 7 ⑥災害医療（災害時保健医療、医療救護班、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team <DMAT>）、
8 災害派遣精神医療チーム(Disaster Psychiatric Assistance Team <DPAT>）、日本医師会災害医療チーム(Japan
9 Medical Association Team <JMAT>）、災害拠点病院、トリアージ等）について説明できる。
- 10 ⑦地域医療に積極的に参加・貢献する。

11

12 **A-7-2) 国際医療への貢献**

13 **ねらい：**

14 国際社会における医療の現状と課題を理解し、実践するための基礎的素養を身に付ける。

15

16 **学修目標：**

- 17 ①患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語に対応することができる。
- 18 ②地域医療の中での国際化を把握し、価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮することができる。
- 19 ③保健、医療に関する国際的課題について理解し、説明できる。
- 20 ④日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。
- 21 ⑤医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みについて説明できる。

22

23

24 **A-8 科学的探究**

25 医学・医療の発展のための医学研究の必要性を十分に理解し、批判的思考も身に付けながら、学
26 術・研究活動に関与する。

27

28 **A-8-1) 医学研究への志向の涵養**

29 **ねらい：**

30 医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と基礎的素養を有する。

31

32 **学修目標：**

- 33 ①研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。
- 34 ②生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。
- 35 ③患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深
36 化につなげることができる。
- 37 ④抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学
38 研究等）に参加することができる。

39

40

41 **A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢**

42 医療の質の向上のために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって
43 自律的に学び続ける。

44

45 **A-9-1) 生涯学習への準備**

46 **ねらい：**

47 キャリアを意識し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

48

49 **学修目標：**

- 1 ①生涯学習の重要性を説明できる。
- 2 ②生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。
- 3 ③キャリア開発能力を身に付ける。
- 4 ④キャリアステージにより求められる能力に異なるニーズがあることを理解する。
- 5 ⑤臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にする。
- 6